

令和6年度 公立小中学校及び県立高等学校・特別支援学校におけるいじめの状況等

1 概 要 (図1・表1参照)

- 令和6年度の公立小中学校および県立高等学校・特別支援学校におけるいじめの認知件数は全体で6,026件と、令和5年度より805件(11.8%)減少した。
- 1,000人あたりのいじめ認知件数は37.0件で、令和5年度より4.1件減少している。
- 令和5年度と比較すると、校種別の1,000人あたりの認知件数は、小学校は約0.9倍、中学校は約0.8倍、高等学校は約1.1倍、特別支援学校は約0.9倍になっており、高等学校以外の校種でやや減少した。

(表1) いじめの1,000人あたりの認知件数

区分		※学校総数: A(校) [学校基本調査の校数]	全児童生徒数	認知学校数:B(校)	認知率: B/A×100 (%)	認知件数:C (件)	認知件数の 増減(件)	1,000人あたりの認知件数
小学校	R 2	370	90,818	307	83.0	2,647	282	29.1
	R 3	364	88,968	310	85.2	3,004	357	33.8
	R 4	363	87,336	308	84.8	3,907	903	44.7
	R 5	360	85,426	302	83.9	4,809	902	56.3
	R 6	360	82,971	286	79.4	4,226	▲ 583	50.9
中学校	R 2	159	45,027	130	81.8	794	▲ 41	17.6
	R 3	159	45,159	133	83.6	934	140	20.7
	R 4	158	44,629	133	84.2	1,051	117	23.5
	R 5	157	44,105	134	85.4	1,574	523	35.7
	R 6	157	43,614	131	83.4	1,322	▲ 252	30.3
高等学校	R 2	67	37,810	59	88.1	302	72	8.0
	R 3	67	36,326	54	80.6	311	9	8.6
	R 4	67	35,384	55	82.1	383	72	10.8
	R 5	67	34,672	58	86.6	397	14	11.5
	R 6	67	34,584	60	89.6	430	33	12.4
特別支援学校	R 2	18	1,747	8	44.4	21	4	12.0
	R 3	18	1,779	8	44.4	19	▲ 2	10.7
	R 4	18	1,763	8	44.4	39	20	22.1
	R 5	18	1,803	10	55.6	51	12	28.3
	R 6	18	1,807	11	61.1	48	▲ 3	26.6
合計	R 2	614	175,402	504	82.1	3,764	317	21.5
	R 3	608	172,232	505	83.1	4,268	504	24.8
	R 4	606	169,112	504	83.2	5,380	1,112	31.8
	R 5	604	166,006	504	83.4	6,831	1,451	41.1
	R 6	604	162,976	488	80.8	6,026	▲ 805	37.0

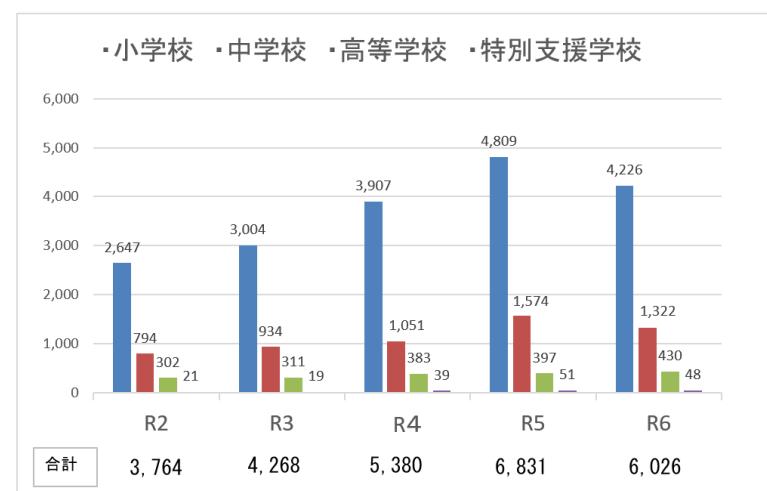
※高等学校の学校総数は全日制、定時制、通信制を併設している学校はそれぞれの課程につき1校として計上。

※学校総数は、休校(小学校:18校、中学校:7校)の学校も含む。

※分校は1校として計上。

(図1) いじめの認知件数の推移

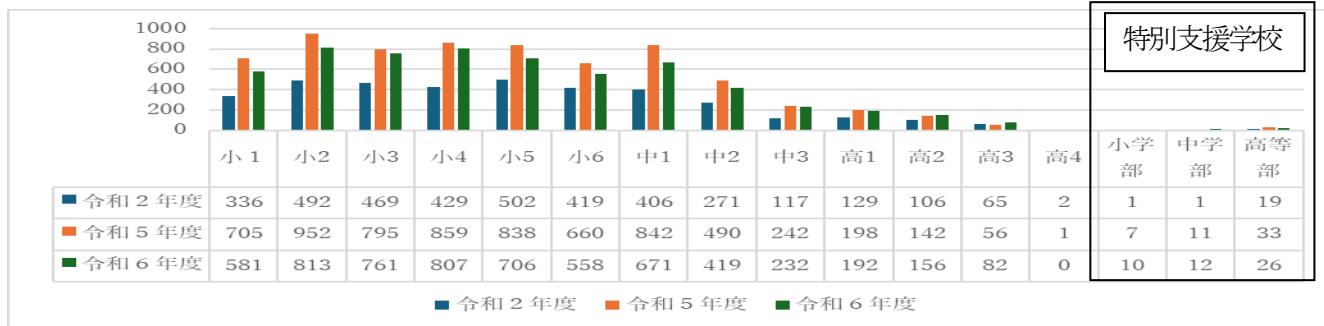
(単位:件)



2 学年別認知件数（図2参照）

- 令和6年度の学年別認知件数は、令和5年度と比較すると高等学校の2年生と3年生、特別支援学校の小学部と中学部で増加し、それ以外では減少した。
- 令和2年度と比較すると、各校種の学年別認知件数は、高等学校の4年生以外で増加している。最も増加している学年は、小学校では4年生で378件（約1.9倍）、中学校では1年生で265件（約1.7倍）、高等学校では1年生で63件（約1.5倍）、特別支援学校では中学部で11件（12.0倍）である。

（図2） 令和2年度、令和5年度及び令和6年度 学年別認知件数



3 いじめの発見のきっかけ（表2参照）

- 公立小中学校では、「アンケート調査など学校の取組により発見」が最も多く（小学校57.9%、中学校27.5%）、過去5年間をみても最も高い状態が続いている。高等学校では、「本人からの訴え」が最も多く（高等学校49.5%）、昨年度同様、令和2年度から4年度まで最も多かった「アンケート調査など学校の取り組みにより発見」を上回っている。特別支援学校では「学級担任が発見」が最も多く（特別支援学校25.0%）、昨年までもっと多かった「本人からの訴え」を上回った。

（表2） いじめの発見のきっかけ

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
アンケート調査など学校の取組により発見	2,447	57.9%	364	27.5%	59	13.7%	10	20.8%	2,880	47.8%
本人からの訴え	562	13.3%	337	25.5%	213	49.5%	9	18.8%	1121	18.6%
当該児童生徒(本人)の保護者からの訴え	563	13.3%	221	16.7%	84	19.5%	7	14.6%	875	14.5%
学級担任が発見	228	5.4%	108	8.2%	15	3.5%	12	25.0%	363	6.0%
児童生徒(本人を除く)からの情報	190	4.5%	89	6.7%	24	5.6%	4	8.3%	307	5.1%
学級担任以外の教職員が発見(養護、スクールカウンセラー等を除く)	97	2.3%	151	11.4%	20	4.7%	0	0.0%	268	4.4%
保護者(本人の保護者を除く)からの情報	109	2.6%	41	3.1%	8	1.9%	1	2.1%	159	2.6%
その他	30	0.7%	11	0.8%	7	1.6%	5	10.4%	53	0.9%
地域住民からの情報	3	0.1%	3	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	6	0.1%
養護教諭が発見	8	0.2%	6	0.5%	1	0.2%	0	0.0%	15	0.2%
学校以外の関係機関(相談機関を含む)からの情報	10	0.2%	1	0.1%	2	0.5%	0	0.0%	13	0.2%
匿名による投書など	5	0.1%	0	0.0%	2	0.5%	5	10.4%	12	0.2%
スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	4	0.1%	1	0.1%	2	0.5%	0	0.0%	7	0.1%
計	4,226	100.0%	1,322	100.0%	430	100.0%	48	100.0%	6,026	100.0%

4 いじめの解消状況（表3参照）

- 令和6年度のいじめの解消件数は4,552件で、令和5年度より506件減少したものの、解消率は75.5%で、令和5年度を1.5ポイント上回った。

※ 「いじめ防止等のための基本的な方針」

（文部科学省：平成29年3月改定）により、いじめの解消は被害者に対する行為が止んでいる状態が少なくとも3か月継続していることとなった。

- 次年度6月末の解消状況について、令和6年度の解消率は94.6%で令和5年度を1.7ポイント下回った。

【参考】次年度6月末の解消状況

令和2年度：94.9% 令和3年度：92.1% 令和4年度：92.1%

（表3） いじめの解消状況

区分	解消しているもの	
	R5	R6
小学校(件)	3,518	3,231
解消率(%)	73.2	76.5
中学校(件)	1,224	1,009
解消率(%)	77.8	76.3
高等学校(件)	282	278
解消率(%)	71.0	64.7
特別支援学校(件)	34	34
解消率(%)	66.7	70.8
計(件)	5,058	4,552
解消率(%)【R7.3月末時点】	74.0	75.5

解消率(%)【R7.6月末時点】	96.3	94.6
------------------	------	------

5 いじめの態様（表4参照）

- 「冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」の認知件数に占める割合は 55.1%で、令和元年度以降をみても全校種とも最も高い状態が続いている。
- 「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする」の認知件数に占める割合は 25.1%で、2番目に多い態様となっている。

（表4）いじめの態様（複数回答）

いじめの態様	小学校(件)		中学校(件)		高等学校(件)		特別支援学校(件)		計(件)	
	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6
認知件数(総数)	4,809	4,226	1,574	1,322	397	430	51	48	6,831	6,026
冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	2,098	2,274	866	757	233	264	27	23	3,224	3,318
構成比	43.6%	53.8%	55.0%	57.3%	58.7%	61.4%	52.9%	47.9%	47.2%	55.1%
仲間外れ、集団による無視をされる。	510	481	107	88	30	62	1	3	648	634
構成比	10.6%	11.4%	6.8%	6.7%	7.6%	14.4%	2.0%	6.3%	9.5%	10.5%
軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする。	1,017	1,191	167	269	40	42	10	11	1,234	1,513
構成比	21.1%	28.2%	10.6%	20.3%	10.1%	9.8%	19.6%	22.9%	18.1%	25.1%
ひどくぶつかられたりたたかれたり、蹴られたりする。	365	370	122	137	17	22	2	4	506	533
構成比	7.6%	8.8%	7.8%	10.4%	4.3%	5.1%	3.9%	8.3%	7.4%	8.8%
金品をたかられる。	41	42	21	18	17	1	0	0	79	61
構成比	0.9%	1.0%	1.3%	1.4%	4.3%	0.2%	0.0%	0.0%	1.2%	1.0%
金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	266	458	63	133	23	48	1	13	353	652
構成比	5.5%	10.8%	4.0%	10.1%	5.8%	11.2%	2.0%	27.1%	5.2%	10.8%
嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられた	609	769	125	160	43	63	6	11	783	1,003
構成比	12.7%	18.2%	7.9%	12.1%	10.8%	14.7%	11.8%	22.9%	11.5%	16.6%
パソコンや携帯電話等でひぼう・中傷や嫌なことをされる。	108	120	138	161	52	71	12	8	310	360
構成比	2.2%	2.8%	8.8%	12.2%	13.1%	16.5%	23.5%	16.7%	4.5%	6.0%
その他	144	43	33	19	40	15	4	4	221	81
構成比	3.0%	1.0%	2.1%	1.4%	10.1%	3.5%	7.8%	8.3%	3.2%	1.3%

6 いじめの日常的な実態把握のために、学校が直接児童生徒に対し行った具体的な方法（表5参照）

- 全ての公立小中学校および県立高等学校でアンケート調査を実施している。特別支援学校ではアンケート回答が難しい児童生徒の実情に応じて、アンケート調査に変えて面談や家庭訪問を行い確認している。

（表5）いじめの日常的な実態把握のために、学校が直接児童生徒に対し行った具体的な方法（複数回答）

（単位：校）

区分	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	計
(回答対象校数)	(342)	(150)	(67)	(18)	(577)
アンケート調査の実施	342	150	67	17	576
個別面談の実施	299	145	55	11	510
「個人ノート」や「生活ノート」といったような教職員と児童生徒との間で日常的に行われている日記等	226	145	3	6	380
家庭訪問	290	138	16	9	453
その他	8	7	2	2	19

7 いじめの重大事態の発生件数

- 公立学校における令和6年度のいじめの重大事態の発生件数は20件であった。（小学校5件、中学校6件、高等学校8件、特別支援学校1件）
- 県立学校で発生した重大事態の調査報告書には、生徒同士のトラブルを把握した場合には教員間で共有を図り、いじめの早期把握および対応など適切に対処すること、教育活動全体を通じてSNSの危険性やトラブル防止についての学習を実施すること、オンライン相談フォームの案内を定期的に行うなど、いつでも悩みを相談できる体制を構築すること、部活動内においても生徒がいじめの問題について自分事として考える機会を設けることなどが提言された。